

# 目次

[概要](#)  
[前提条件](#)  
[要件](#)  
[使用するコンポーネント](#)  
[サンプル スクリプト](#)  
[関連情報](#)

## 概要

このスクリプトは、テストした Web ページに対して 500 シリーズのエラーがサービスから返されると失敗します。このドキュメントでは、スクリプト キープアライブの実装についても説明します。このスクリプティング方法は、リモート アクセス サーバ (RAS) のダイヤルアップ クライアント、ターミナル プログラム、および一般的なスクリプト ユーティリティに存在する機能と密接に関連しています。この機能は、WebNS の豊富なスクリプト言語を使用します。

簡単なソケット Application Program Interface (API) と (接続して下さい/接続解除/送信/受信)、スクリプト キープアライブ与えるかユーザに自身のプロトコルを合わせる機能をまたはサービスの信頼できる ALIVE DOWN 提供するために書きますステップの自身のシーケンスを完了して下さい。スクリプト キープアライブ 機能性なしで、FTP に現在、HTTP、インターネット制御メッセージ プロトコル制限されます。(ICMP)、および TCP。しかしスクリプト キープアライブを使うとあなた自身のスクリプトが書かれているとき現在のプロトコルの上に残ることができます。たとえば、WebNS の要件なしで Point of Presence 3 に (POP3) KeepAlive型 POP3 を構築するためにサーバを接続するようにとりわけある調子を与えられるスクリプトを開発できます。この機能は顧客が特定の必要条件に適するために自身のカスタム キープアライブを作成することを可能にします。これが Content Services Switch (CSS) のコンポーネントであるが、カスタムスクリプトは Cisco Technical Assistance Center (Cisco TAC) によってサポートされません。

この資料のスクリプト キープアライブは TAC によって公式のサポートを提供されないし、テストされ、あなた自身の思慮分別で利用可能です。

## 前提条件

### 要件

WebNS リッチ スクリプト言語の習熟度。

### 使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- WebNS バージョン 3.x 以上
- CSS 11x00 シリーズ

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく

必要があります。

## [サンプル スクリプト](#)

ここに示されているようにスクリプトが 500 シリーズ エラーを検出するのに使用することができません:

## [関連情報](#)

- [CSS 11000 シリーズ コンテント サービス スイッチのハードウェア サポート \(英語\)](#)
- [CSS 11500](#)
- [CSS11500 \(登録ユーザのみ\) のためのソフトウェアダウンロード](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)